

水蒸気量の季節別変化などを示数として、量的予想図の作成までもっていきたいと思っている。

終りに、永年に亘る御苦勞に、にじむ富士山頂の資料を使用させて載き、なお富士山～三島のシックネス変化図の資料の収集について、当時、御支援を載いた富士山測候所、三島測候所、東京管区气象台に深く謝意を表する次第です。

また、日頃御指導を頂く、藤井台長、市川予報課長、御支援を載く予報課諸兄に厚く御礼申し上げます。

参 考 文 献

1) 中央气象台：富士山頂の気象

- 2) 富士山測候所、三島測候所：富士山及び三島累年原簿
- 3) 静岡地方气象台：静岡県気象月報
- 4) 中央气象台：中央气象台月報
- 5) 中央气象台、気象庁：印刷天気図（地上、高層）
- 6) Japan meteorological agency: aerological data of Japan.
- 7) 気象庁：北半球 500mb 等圧面高度半月平均値
- 8) 小笠原正己：予報研究ノート第6巻1号一季節予報に関する二、三の問題について。
- 9) 宮本英男：「天気」第10巻，8号—シックネス解析による長期予報と短期予報の立場からの擾乱の予想

訪中学術代表团派遣の募金について

日本気象学会国際学术交流委員会

日中両国の学術的交流は、近年ますます要望されるようになりましたが、諸般の事情から日常的な学術交流は諸学界の要望にも拘らずいまだ行われず、その機会も甚だ少いのが現状です。当学会でも、学術の見地から機会あるごとに両国気象界相互の発達のため、学術的交流の努力を重ね、先年北京で開かれた1964年北京シンポジウムには当学会代表として小平、増田両会員を参加させ、多くの成果をあげ得ました。

今回、日中友好協会学術委員会の斡旋により、地球科学関係の学術代表团10名が、本年8月中旬から約1カ月訪中することになり、気象学会からもこれに参加することが計画されました。このことは春季大会総会に提案され、承認されましたが、具体的なことは国際学术交流委員会が行うよう委託されました。委員会は時間的制約があったため在京会員を中心に交渉を進め、種々検討の結果、関西支部より推せんのある橋本清美会員（大阪管区气象台予報官）を理事会に推せんし、理事会は同氏を学会の正式代表とすることを決定した。

派遣に必要な経費約20万円（分擔金15万円および諸雑費5万円）については会員の募金に依ることになりましたので、よろしくご協力下さるようお願いいたします。

なお、日中両国の学術交流についての意見、要望（た

例えば、代表团に交換文献の携行を依頼するなど）がありましたら、この機会になるべく早く当委員会あてにお知らせください。

募金要領は、

1. 募金目標 20万円
2. 募金一口 100円
3. 募金締切り 昭和41年8月15日
4. 募金送金先 原則として各学会員の所属する下記の気象学会各地方支部あて、但し関東地区および都合により直接送付される方は、当国際学术交流委員会あてに送付されるようお願いします。

募金送付先

- 北海道支部（札幌市北2条西18の2 札幌管区气象台内）
- 東北支部（仙台市鉄砲町1 仙台管区气象台内）
- 関西支部（大阪市生野町勝山通り9丁目 大阪管区气象台内）
- 九州支部（福岡市大濠1の2の36 福岡管区气象台内）直接送付先
- 東京都杉並区高円寺北4丁目気象研究所内 日本気象学会国際学术交流委員会